



Toyo Channel

言葉の数だけ、未来は広がる。

Prague Debate Spring 2026(PDS)
プラハ英語ディベート国際大会
2026年7月9日～12日

東洋大牛久英語ディベートチームがチェコ共和国のプラハにて行われている英語ディベート国際大会に参加しました。大会期間は7月9日～12日の4日間で、22の国と地域で63チームが参加しています。最初の2日間で6試合が行われ、その成績をもとに決勝トーナメントへ進出することができます。Toyo Ushiku チームは2勝4敗で次のステージへは進めませんでした。参加チームの中には国の代表チームが参加していることもあり、レベルは極めて高いものでした。このような大会で2勝をもぎ取ることができたことは誇らしいものでした。英語力では劣っていることはなくとも、内容で差が生じた試合もあり、これからの方向性に関して参考になるところが多々ありました。過去のこの大会で日本からの参加者が上位に進出したことはなく、後輩たちにバトンを繋いでいきたいと思っています。

熱戦を繰り広げたクロアチアチームと。試合が終われば、お互いの健闘をたたえ合う大切な友人になりました。▶

試合後は
すっかり
意気投合！



【63チーム22の国と地域】 North Macedonia, Slovenia, Netherlands, Serbia, Taiwan, China, Romania, Albania, Slovakia, Estonia, Lithuania, USA, South Africa, Germany, Czechia, Latvia, Spain, Israel, Italy, Japan, Croatia, Austria

先生の声 世界レベルで挑戦せよ！

ヨーロッパの高校生が中心に参加する大変レベルの高い大会で、2勝できたことはすごいことです。日本の国内大会の上位のチームのメンバーは帰国生が大半ですが、国際大会を経験している生徒が数多くいます。本校の生徒はいわゆる“純ジャパ”で、本格的に英語ディベートをやり始めたのは高校1年からです。その生徒たちが国際大会で通用するぐらいまでレベルを上げることができたのは賞賛に値します。スポーツ選手がより高いレベルでプレーをするために海外へ出ると同様に日本の高校生も世界レベルで挑戦し、グローバルスタンダードの英語力を身につけるべきであると考えています。本校から挑戦者が増えることを期待したい。

国際部英語ディベート担当
井上博人



生徒の声

チェコでは、世界の強豪と噛み合う議論ができた一方、台湾やチェコの強豪に圧倒され、英語力や知識の差を痛感しました。環境を嘆くだけでは英語力は向上しないので今回の悔しさを原動力に、先生や家族への感謝を忘れず、卒業まで努力したいです。

中高一貫コース3年
金子 勇生さん



生徒の声

国内大会とは異なる一人8分間に及ぶスピーチでは世界規模の社会問題について議論しました。原稿に頼らず、豊かな表現力で聴衆を引き込む他国のディベーターが印象的でした。この経験を糧に、世界規模の社会問題への理解を深め、国際社会で活躍できるよう努力したいです。

中高一貫コース3年
鈴木 花麟さん



生徒の声

国によって議論の前提や価値観が異なることを実感すると同時に、自身の知識量や国際的な視点、幅広い分野への理解が不足していることを痛感しました。この経験を通して、説得力のある議論は論理力だけでなく、豊富な知識と多角的な視点も必要であると感じました。今後は幅広い知識力と多面的な視点を養っていきたいです。

中高一貫コース3年
板垣 直希さん

PDSの主な特徴

ルール（フォーマット）：「ワールドスクール（World Schools Style）」と呼ばれる形式を採用しています。これは社会問題や政治など、幅広いテーマについて3対3で議論を行うスタイルです。

参加者：世界中の高校生（中等教育レベルの生徒）が対象です。英語を母国語としない生徒のための部門（ESL）も用意されており、すべてのレベルの参加者が競い合えるようになっています。

歴史：2026年で12回目の開催を迎えた、非常に伝統のある国際大会です。

